

## 6. 欠食・外食の状況

昭和61年の調査において欠食した者の割合は図22のとおり、朝食では男8.5%、女5.5%、昼食では男1.9%、女1.9%、また、夕食では男1.0%、女0.6%である。

また、欠食の多い朝食について、性・年齢階級別にみたのが表5であるが、男女とも20歳代前半に欠食率が高く、男で30.5%、女で15.6%が欠食している。

さらに、1人世帯をみた場合表6のとおり、朝食を欠食する割合が多いのは男では20歳代後半で約6割の人が、女では20歳代前半で約4割の人が欠食している。

一方、外食について、年次推移をみたのが図23であるが、朝、夕食については男女とも年度によって若干の増減を繰り返しているだけで、ほとんど変化はみられない。それに対し、昼食については昭和58年までは若干の増加傾向にあったが、この3年ほど減少の傾向がみられる。

また、性別に外食の構成内容をみると図24のとおり、男女ともに和定食、そば・うどん類が好まれ、両方で約5割を占めている。

図22 性・食卓区分別欠食・外食状況

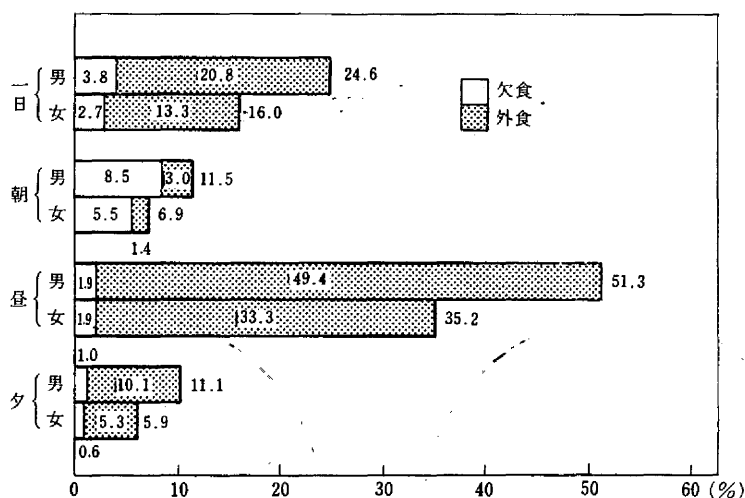


表5 性・年齢階級別朝食の欠食状況

(%)

	1～6歳	7～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
男	1.7	2.1	10.1	30.5	21.8	13.8	8.3	5.0	3.1	2.3
女	1.9	2.5	8.6	15.6	10.7	6.1	6.3	4.6	3.3	2.5

表6 性・年齢階級別朝食の欠食状況(1人世帯)

(%)

	20~24歳	25~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
男	56.9	59.8	32.8	38.3	15.7	7.7	8.3
女	41.7	29.0	25.7	20.3	13.6	6.7	3.5

図23 外食の年次推移

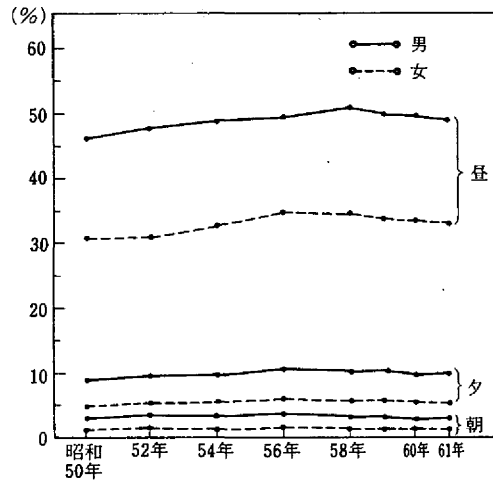


図24 性別の外食の構成内容

